黒岳～トムラウシ山～十勝岳

2013 年 7 月 12 日（金）～16 日（火）
L 柏木、衣斐、加藤

7 月 12 日（金）晴
羽田空港 6:45　旭川空港 8:30　層雲峡ロープウェイ 10:30　黒岳リフト 11:40
黒岳 13:20-40　北海岳 15:50　白雲岳非難小屋 17:30

早朝に羽田空港に集合し、予定通りに羽田空港を出発し旭川空港に到着する。からりとした青空の出迎えであった。雄大な田園風景を楽しみながらタクシーで層雲峡へ向かう。

層雲峡ではビジターセンターに寄って登山情報やクマ情報を確認する。層雲峡からはロープウェイとリフトを乗り継いで高度を稼ぐ。リフトの終点駅の登山事務所に登山届を提出しいよいよ登山開始だ。しばらく樹林帯を登るが、やがて残雪が現れ、雄大な北海道の山々の景色がますます拡がっていく。慣れない重い荷物に喘ぎながらいくと、今回の目的の第一である黒岳に到着する。右より愛別岳、北鎮岳、間宮岳、旭岳、北海岳、白雲岳そしてトムラウシなどと確認しながら北の大地の山並みを楽しむ。

休憩後、黒岳から北海岳に向かう。一旦下り、黒岳石室脇を経由して北海岳へ登る。北海岳では、ガスの中、遠くに雷鳴を聞いて早々に本日の目的地に向かう。しかしながら北海岳の下りでポツリとくる。暗雲が立ち込め始め雷が近づいてきたようだ。雨具、ザックカバーを装着する。すぐに近くで雷鳴が聞こえ雨も激しくなる。恐れ慄きながら、なるべく低いところを歩くようにする。白雲岳分岐付近でようやく雨が小降りになり、空も明るくなってきた。どうやら遠ざかってくれたようだ。残雪の雪渓脇を下り、ようやく本日の宿である白雲岳避難小屋に到着した。10 数張りのテントが張られキャンプしているが本日は避難小屋泊まりとした。一人１０００円なり。親切な小屋番のお兄さんに濡れ物の干し場所などの説明を受け、小屋内で夕食をとった。小屋はツアー客などがいてほぼ満員だった。

層雲峡ロープウェイ乗り場

黒岳頂上

7 月 13 日（土）快晴

白雲岳避難小屋 5:25　平ヶ岳 7:10　忠別岳 8:50　五色岳 10:45　ヒサゴ沼避難小屋 12:40

　昨夜は時々雨が降っていたが、本日は朝から快晴だ。避難小屋より稜線に向かってトラバース開始する。途中残雪を横切ったりし、稜線に出る。これからが高山植物の花々に出迎えられ、素晴らしい稜線歩きになる。正面には王冠のようなトムラウシの堂々とした姿が遠くに眺められる。コマクサの大群落、チングルマの一面の草原などなどしばしば足を止め写真撮影会となった。忠別岳で大休憩し、食事をとりながら、これまでに歩いてきた旭岳方向やこれから行くトムラウシ山・十勝岳方向を眺める。雄大な景色だ。多くの山はまだ残雪を多く抱いている。

　忠別岳よりなだらかな稜線を下り五色岳へ向かう。さらに化雲岳へと向かう。化雲岳手前の雪渓をトラバースしながら大雪渓を下って、本日の宿泊地のヒサゴ沼の避難小屋へと下った。ヒサゴ沼避難小屋は無人の小屋で無料であり、20 人程の宿泊であった。またキャンプ場にはテントが 10 張程であった。予定より早く到着したので、充分な水分補給と明日の行動のための水の煮沸をして休養をとった。

白雲岳避難小屋

忠別岳から大雪山方向を望む

忠別岳からトムラウシ山方向を望む

7 月 14 日（日）晴

ヒサゴ沼避難小屋 4:40　稜線 5:40　トムラウシ山 7:50～8:10　南沼キャンプ場 8:35

三川台 10:30～55　ツリガネ山 12:30～40　コスマヌプリ 15:25　双子池キャンプ場 16:30

　風が冷たく本日も気持ちの良い朝だ。防寒着（合羽）を着こんでヒサゴ沼避難小屋を後にする。ヒサゴ沼を回り込んで大雪渓を登り稜線に向かう。雪渓はスプーンカットを選びながらスタカットを利かせてゆっくり登る。雪渓上部では稜線の位置が分からず、先行パーティや後続パーティ共々右往左往する。結局各々シャクナゲとハイ松の藪漕ぎをし、化雲岳からトムラウシ山へと続く稜線に達する。稜線は左右にお花畑や雪渓、日本庭園、ロックガーデンなど変化に富んでいる。トムラウシ山の荒々しい山容が青空に映えて美しい。トムラウシ山手前の北沼も雪渓を携えてブルーアイスとなっており、北欧的な雰囲気のところだ。ごつごつした大石の間を登っていくとトムラウシ山の頂上に到着した。

　まだ数人程度がいるだけだ。早速の記念撮影をし、軽い食事を摂りながら景色を楽しむ。これから行く十勝岳方向（南方向）を望むと、まだまだ遠い。手前のオプタテシケが堂々と構えている。十勝岳が優美な頂上を覗かせている。さらに遠くには富良野岳の富士山のような独立峰として秀麗な姿を見せて

いる。東方向にはニベソツ山、石狩岳など雄大な山並みが望まれ、広大な森林地帯が広がっている。多分多くのヒグマが生息しているのだろう。我々が歩いてきた方向を振り返ると大雪山系が残雪を多く従え雄大に望まれる。数分間に多くの登山者が登ってくる。南沼キャンプ場（トムラウシ登山コースや三川台コースか）からもたくさん登ってきている。もっともっとここに居たいが先も長いので再び行動開始だ。ヒサゴ沼避難小屋で一緒だった東京から来たという単独行の女性がこれから下山するのでごみを降ろしてあげるとのことでお言葉に甘えてお願いする。

トムラウシ南面の南沼キャンプ場も素敵なところだ。多くのテントが張られている。これから三川台までの稜線も素晴らしいコースだ。湖沼あり残雪あり、一面に広がるチングルマもお花畑、コマクサの群落、キバナシャクナゲなどなど。三川台にて大休止し食事をとる。三川台コースからトムラウシ山へと向かう登山者も多そうだ。

三川台からはこれまでの素晴らしい稜線歩きとは一変する。下りとなり笹とか樹木に覆いかぶさられた暑苦しいところを延々と喘ぎながら行く。ヒグマの出現も怖いので時々笛を鳴らす。２～３パーティとすれ違う。どこから来たのかと情報交換をする。

ツリガネ山、コスマヌプリなどを経由してヨレヨレになりながら予定時間より早く、本日の幕営地の双子池キャンプ場に到着する。本日はツェルトビバークだ。雲が出ており雨も心配だが降らないように祈るだけだ。水は雪渓の雪解けが湖状になっており充分にある。しかし煮沸が必要だ。明日の行動用や食事用など７～８リットル程作るのには時間が掛る。本日の就寝は午後８時を過ぎた。

ヒサゴ沼避難小屋

縦走路よりヒサゴ沼を振り返る

縦走路上の日本庭園

トムラウシ山直前の北沼

トムラウシ山頂上

トムラウシ山から大雪山方向を振り返る

トムラウシ山からこれから向かう十勝岳方向を望む

チングルマの群落

７月１５日（月）晴後曇後小雨

双子池キャンプ場 4:40　縦走路 6:40～50　オプタテシケ山 7:40～8:00　ベベツ岳 9:25

美瑛富士避難小屋分岐 10:40～11:05　十勝岳・美瑛岳分岐 13:00　コル 14:00～15

十勝岳 15:30～40　十勝岳避難小屋手前の沢出会い 17:15　吹上温泉白銀荘 19:00

十勝温泉凌雲閣 19:30

空は雲が多いが、幸い昨夜は雨も降らずずぶぬれになることなかった。本日の行動も長いが目的の白銀荘では温泉とビールが待っている。カラ元気をだして出発する。眼前に聳えるオプタテシケが巨大に迫ってくる。まずは雪渓登りだ。スプーンカットを拾いながらスタカットを利かせて高度を稼ぐ。また例によって雪渓上部から縦走路へ抜ける道がわからない。右手方向へ藪漕ぎをしたり雪渓に下りたりなど数回繰り返し、結局オプタテシケ頂上へと続くと思われる大石のガレ場登りをしばらくすることになる。やがて左手から伸びてくる縦走路と合流する。夏道は雪渓を横切り左手方向にあったのだ。後続パーティも我々の後を追って来る。振り返ると昨夜のキャンプ地の双子池と上部の雪渓が涼しげに望まれる。これから約１時間苦しい登りが続く。オプタテシケは巨大な山だ。昨日途中で出会った登山ガイドに「あの山を登るのね！ご苦労さん」と言われたのがわかった。

オプタテシケで大休止。まずは撮影会だ。これから登る美瑛岳・十勝岳が目の前に聳える。秀麗な富良野岳がきれいだ、振り返ってみるとトムラウシ山、さらに大雪山系がもう遠くに望まれる。ずいぶんあるいて来たものだ。思わずの嘆息。元気娘の励ましを受け、ロートル二人は重い腰を上げる。

ベベツ岳の休憩を楽しみに歩き続ける。がベベツ岳ではアブのような虫が多く休憩はもう少し先にする。落し物が多いのかも知れない。

美瑛富士避難小屋分岐にて大休止。昼食とする。このころになると水で流しこまないと食べ物が喉を通らない。予備食のウィダインゼリー、試供品のスポーツドリンク剤などとにかく胃に流し込んだ。美瑛岳の登りはガレ場登りだ。いよいよ火山特有の地層になってきた。苦しい登りが続く。時折雲が太陽を遮って、谷筋から雪渓の冷気を含んだ風がなんとも心地よい。思わず止まり、身体全体で冷風を受け止める。十勝岳・美瑛岳分岐達し、十勝岳方向を望むと、愕然とする。見た目が遠いのだ。ここからコースタイムで２時間半のはずだ。とてもそんな時間では行けそうな感じがしない。

美瑛岳の巨大な火山噴火口の東側をトバースしながら滑りやすい道を慎重に十勝岳へと向かう。十勝岳から草木もない黒々とした巨大な尾根が東方向に長々と伸びている。コルで休止し、最後のエネルギ

一補給をする。これから火山灰の細かい砂利道だ。滑り易いが意外に歩き易く高度を稼げる。やがて十勝岳の頂上に続く平地に到着。思わず歓声が上がる。もう少しで最終目的地だ。遠くから見ると秀麗な姿であるが、頂上付近はごつごつした大石が堆積している。ついに十勝岳頂上に達する。なんとかここまで辿りついた。みんなで感激の握手。ガスに覆われ視界はないが記念撮影。先に頂上に居た東京から来たという仙人みたいなご老人に三人の撮影をして頂いた。

十勝岳より本日の宿泊地目指して下山開始。歩き難い道を慎重に下る。やがて平地となり火山灰の砂利道となる。ひろびろとした火山外輪道を行くとまた歩き難い急な下り道となる。十勝岳避難小屋や望岳台や我々の目指す吹上温泉白銀荘の湯けむりが望まれる。

十勝岳避難小屋近くの沢出会いにて小休止し、避難小屋を経由していくと、ここで急に雨に祟られる。急いで合羽を着こむ。蒸し暑くてかなわない。吹上温泉分岐へ達するころには雨は止む。

分岐より温泉まで向かう道もまた難行苦行だ。先の雨の露払いをしながら渡渉したりなど、夕方なのでヒグマに怯え笛を吹きながら、ようやく白銀荘に到着した。

きれいなカーキャンプ場を持つ宿泊施設だ。早速宿泊交渉をする。ところが満員とのことで素泊まりも不可とのこと。がっかりする。仕方ないのでテントを張るかと思ったが、近くに素泊まりでもできるところがないか交渉してみた。親切な宿の方が当たってくれて、十勝温泉凌雲閣が 1 部屋空いていること（一人素泊まり 3000 円）なので即座にお願いする。ところがそこまでどのようにいくのか相談したところ、車で送ってくれるとのこと。このように親切にして頂いて無事十勝温泉凌雲閣に辿り着いた。

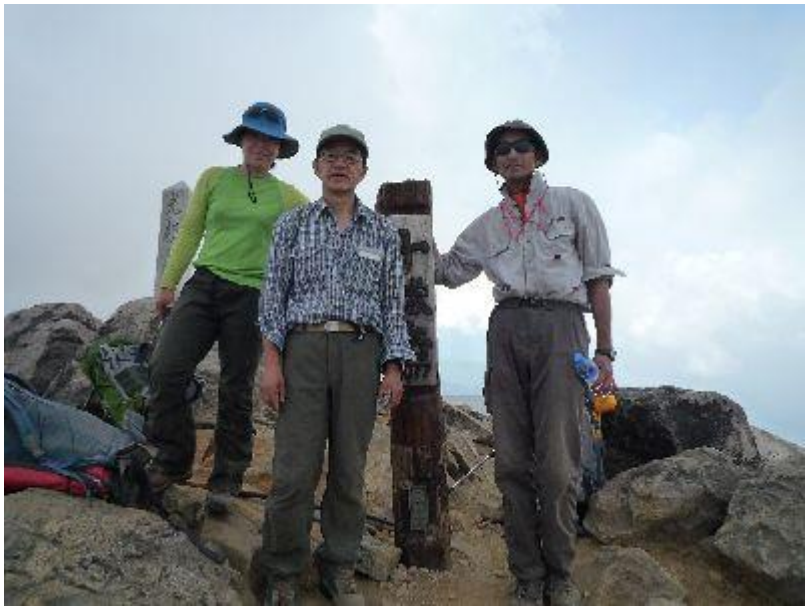
凌雲閣では時間も遅いのだが食事を作ってくれるとのことなのでお願いし、久しぶりの焼き肉定食と生ビールで乾杯する。温泉で汗を流した後再びカンビールで乾杯。温かい布団の中でいびきをかき始めたのはさほど時間は掛らなかった。

双子池キャンプ場方向を振り返る

オプタテシケ山頂上

オプタテシケ山から十勝岳山域を望む

美瑛岳から十勝岳を望む



十勝岳頂上

十勝岳からの下山路

7 月 16 日（火）晴

十勝温泉凌雲閣（バス）10:18　上富良野（バス）11:30　旭川駅 13:00

旭山動物園 13:30～17:30　旭川駅 18:00

　凌雲閣より村営バスで上富良野駅へ、その後バスで旭川へ。旭川にて加藤が宿泊予定のホテルに荷物を預かってもらい、旭山動物園で時間を過ごす。再び旭川まで戻り、柏木、衣斐は旭川空港へ、加藤は旭川のホテルへと向かい、今回の山行を終了した。

お世話になった十勝温泉凌雲閣